

2022年度

上期決算説明会

2022年11月11日

- 1. 2022年度 上期実績**
- 2. 2022年度 通期業績予想**
- 3. 参考資料**

1

2022年度 上期実績

2022年度 上期実績

売上高は、原料価格高騰による販売価格の改定、為替円安による影響等により、大幅増収。
営業利益は、原料価格高騰に伴う採算低下や、固定費の増加、販売数量の減少により減益。

2022年度 上期実績

(単位：億円)

	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比
売上高	2,045	2,684	+639
営業利益	79	51	▲28
経常利益	76	54	▲23
親会社株主に帰属する 四半期純利益	60	32	▲28

FY2022 上期計画	上期計画比
2,300	+384
70	▲19
67	▲13
44	▲12

売上高 +639億円

パームなどの原料価格高騰による販売価格の改定、
為替円安の影響により大幅増収。

営業利益 ▲28億円

パームなどの原材料価格高騰に伴う採算低下に加え、
北米油脂新工場稼働による固定費増加、中国などでの販売数量の
減少などにより減益。

売上高 +384億円

為替円安の影響により、米州や東南アジアで大幅に増加したこと
に加え、原料価格高騰に伴う販売価格の改定を進めたことにより、
計画超過。

営業利益 ▲19億円

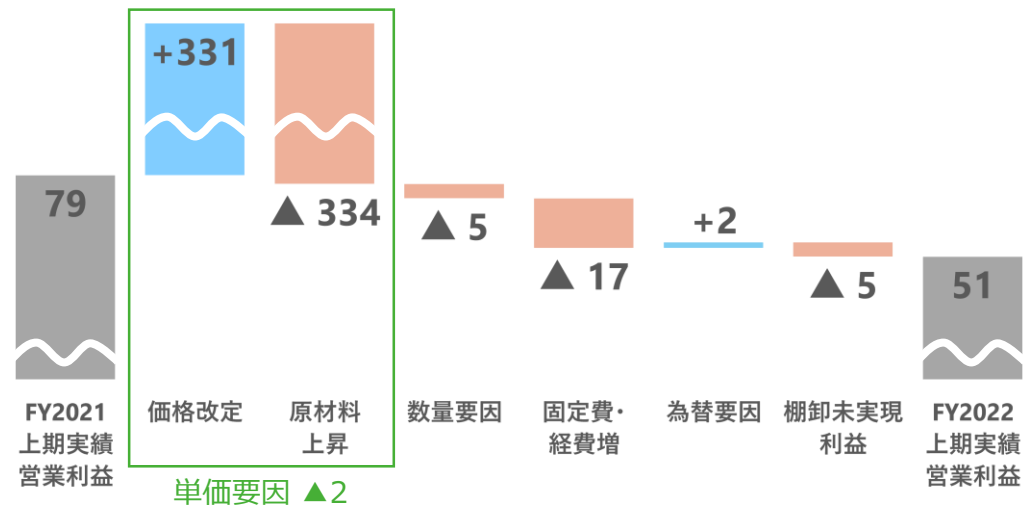
北米の油脂新工場のインフラ整備の遅れに伴う販売数量計画の未達、
日本の大豆たん白素材や、中国の乳化・発酵素材の販売数量の未達
などにより、計画未達。

2022年度 上期実績 営業利益増減分析

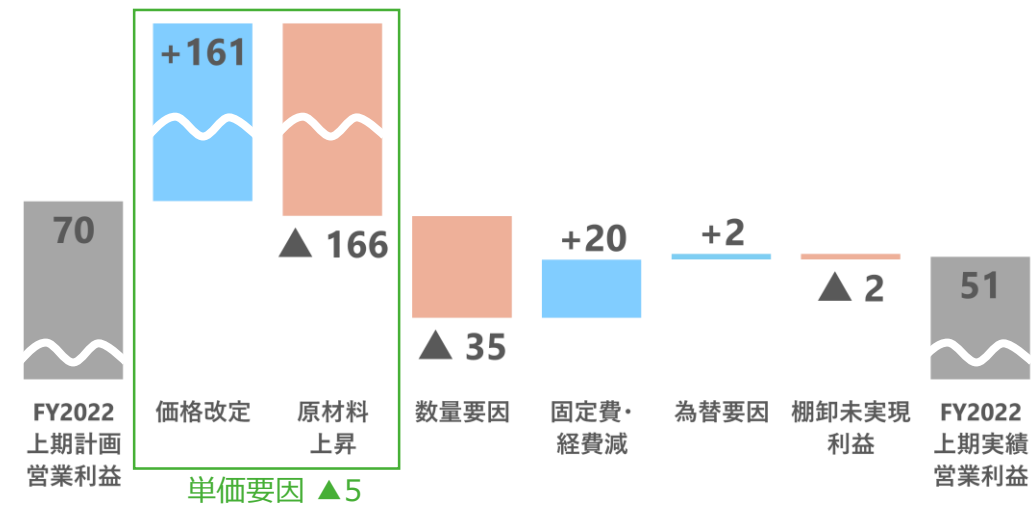
前年同期比：価格改定は、一部の事業やエリアで採算低下があったものの、東南アジアの植物性油脂の大幅伸長でカバー。
固定費・経費が北米油脂新工場稼働やインフレ影響で増加。

上期計画比：北米油脂新工場や日本の業務用チョコレート、大豆加工素材などの販売数量が計画未達。

前年同期比



上期計画比



単価要因	東南アジアの油脂やブラマーの採算改善が寄与も、中国の乳化・発酵、日本の油脂などで価格改定が遅れる。
数量要因	オイルシーズの新規連結やハラルドでの伸長が寄与するも、ブラマーのカカオ事業、中国の乳化・発酵、日本の大豆加工素材などで数量が減少。
固定費・経費	北米油脂新工場稼働による固定費や、ブラマーの人件費・物流費の増加等。

単価要因	東南アジアの油脂やハラルドで採算が改善した一方、中国の乳化・発酵、日本の油脂などで価格改定が遅れる。
数量要因	北米油脂新工場のインフラ整備の遅れによる販売数量の低迷、日本の業務用チョコレート、大豆加工素材等の販売数量が計画未達。
固定費・経費	グループ全体で人件費、販促費など低減。

* ブラマー：業務用チョコレート事業・米州(北米)、ハラルド：業務用チョコレート事業・米州(ブラジル)、オイルシーズ：植物性油脂事業・米州

2022年度上期 セグメント別概況

(単位：億円)

	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年 同期比
売上高	2,045	2,684	+639
植物性油脂	617	1,014	+397
業務用チョコレート	876	1,055	+179
乳化・発酵素材	377	446	+70
大豆加工素材	175	169	▲7
営業利益	79	51	▲28
植物性油脂	43	33	▲9
業務用チョコレート	28	26	▲2
乳化・発酵素材	10	0	▲9
大豆加工素材	18	9	▲8
グループ管理費用等	▲19	▲19	▲0



植物性油脂

- ↳ 日本 : 販売価格改定の遅れによる採算低下。
- ↳ 米州 : 新工場のインフラ整備の遅れ、物流混乱。
- ↗ 東南アジア : 販売が堅調に推移したことに加え、マレーシア子会社での一過性の需要獲得・採算改善などにより伸長。



業務用チョコレート

- ↳ 日本 : 冷菓・流通菓子向けの販売数量が減少。
- ↗ 米州 : ブラマーは、カカオ事業での販売減少も価格改定が寄与。ハラルドは、価格改定の浸透に加え、流通菓子メーカー向けの販売数量が伸長。



乳化・発酵素材

- ↗ 日本 : 外食・コンビニ向けの販売が伸長。
- ↳ 東南アジア : 販売価格改定を実施するも、それを上回る原料、エネルギーコストの上昇により採算低下。
- ↳ 中国 : ロックダウンによる需要低迷、販売価格改定の遅れ。



大豆加工素材

- ↳ 日本 : 粉末状大豆たん白の販売数量減少。

2

2022年度 通期業績予想

2022年度 通期業績予想

為替円安、原料価格高騰の影響により、売上高の期初計画を修正。
営業利益は、下期に採算改善、日本市場での需要回復や販売強化等により、期初計画通り165億円を予想。

2022年度 通期業績予想

(単位：億円)





	FY2021 実績	FY2022 修正予想	前期比
売上高	4,338	5,500	+1,162
営業利益	150	165	+15
経常利益	144	158	+14
親会社株主に帰属する 当期純利益	115	105	▲10

FY2022 期初計画	期初計画比
4,800	+700
165	-
158	-
105	-

売上高 +1,162億円

為替円安の影響や原料価格高騰による販売価格の改定、北米油脂新工場の通年での稼働などにより増収を予想。





営業利益 +15億円

- ↗  東南アジアの販売好調・採算改善、北米新工場の販売数量の増加。
- ↗  ハラルドの販売好調。
- ↗  東南アジアでの採算改善。
- ↘  日本での販売数量の減少。

売上高 +700億円

上期を中心とした原料価格の高騰による販売価格の改定、為替円安の影響により期初計画から増加。

営業利益 -億円 (期初計画からは変更なし)

- ↗  東南アジアの販売好調・採算改善、日本の採算改善。
- ↘  ブラマーでのカカオ加工設備不良、米国の景況悪化により販売数量の減少。
- ↘  中国でのロックダウンによる需要低迷、上期価格改定の遅れ。
- ↘  日本での販売数量の減少。

2022年度通期 セグメント別予想

(単位：億円)

	FY2021 通期実績	FY2022 修正予想	前年 同期比	期初 計画比
売上高	4,338	5,500	+1,162	+700
植物性油脂	1,350	1,966	+616	+281
業務用チョコレート	1,855	2,221	+366	+321
乳化・発酵素材	791	935	+144	+129
大豆加工素材	342	378	+36	▲31
営業利益	150	165	+15	-
植物性油脂	74	92	+18	+24
業務用チョコレート	75	79	+4	▲9
乳化・発酵素材	16	19	+3	▲8
大豆加工素材	21	15	▲6	▲10
グループ管理費用等	▲37	▲41	▲4	+2



植物性油脂

- ・日本 : 円安・燃料コスト上昇に対応した価格改定を実行。
- ・米州 : 新工場の3Q以降のフル稼働、計画達成に向けて対応。
- ・東南アジア : サステナブル認証油の需要増加に対応し、販売を強化・継続。



業務用チョコレート

- ・日本 : 下期土産市場の需要回復の取り込みにより、上期の販売数量の減少をカバー。
- ・米州 : ブラマーは米国のインフレ、景況感悪化に伴う採算低下、販売数量の減少を見込む。
- ・欧州 : ハラルドは販売促進を実施。来春稼働に向け新工場準備。設備投資により、生産能力を増強し販売数量伸長。



乳化・発酵素材

- ・日本 : 外食、コンビニ向けの販売促進などによる伸長。
- ・東南アジア : 上期の収益性低下が響くが、下期の価格改定の浸透やコストダウンにより、通期での業績改善を目指す。
- ・中国 : 上期の収益性低下、販売数量未達が響くが、コロナ禍からの需要回復を見据え、新製品の投入、営業活動強化を進める。



大豆加工素材

- ・日本 : 上期では販売数量が減少。下期では価格改定を継続し、大豆たん白の拡販実施。
- ・欧州 : 多糖類の新工場は2023年3月稼働予定。

外部環境認識と通期予想達成に向けた対策

外部環境の変化

主要原料価格の変動

- ・パーム
ウクライナ情勢等を受けて大幅高、6月以降は下落。
- ・大豆
ウクライナ情勢等を受けて大幅高、一時下落したものの未だ高水準。

金融政策や為替動向

- ・金融政策によるインフレ抑制に伴う米国・欧州での景況感の悪化。
- ・円安に伴う輸入コスト増、入国制限によるインバウンド需要の回復遅れ。
- ・中国でのロックダウン長期化による景況感の悪化。

インフレ、雇用環境、物流混乱

- ・人件費や光熱費などの製造コストの増加続く。
- ・労働力不足や物流の混乱は改善の兆しも、引き続き課題。

上期の状況

価格改定

期初より販売価格の適正化を最優先課題として実施。原料価格の一段高、インフレなどにより、価格改定を継続。

■ 適正な価格改定の実施

-  東南アジア
-  日本
-  米州(ブラマー)、
米州(ハラルド)

■ 価格対応遅れ

-  日本
-  中国、東南アジア

販売数量の増減

コロナ後の消費回復による拡販を見込むも一部で回復に遅れ。生産の適正化や営業活動強化を推進。

■ 販売数量の増加や堅調な販売

-  東南アジア
-  米州(ハラルド)

■ 販売数量の減少









-  米州
-  日本
-  中国
-  日本
-  米州(ブラマー)

通期予想達成に向けて

FY2022 通期予想

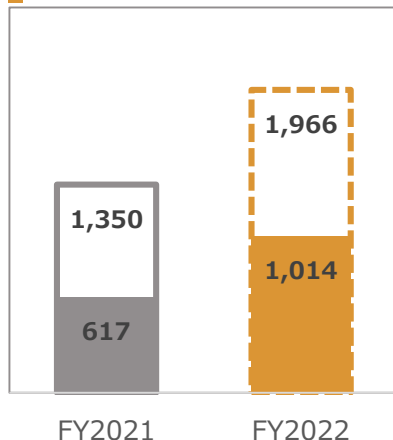
売上高 **5,500** 億円 (前期比 +1,162億円)
営業利益 **165** 億円 (前期比 +15億円)

通期予想達成に向けた優先施策

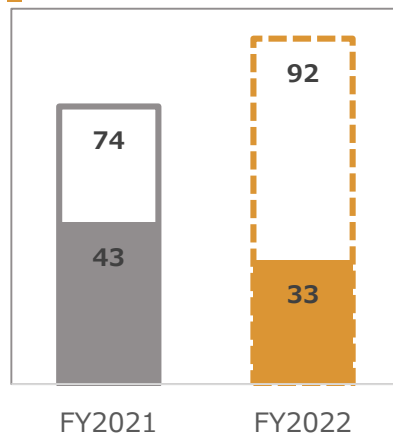
-  日本：販売価格の適正化
-  米州：新工場の早期フル稼働達成
-  日本：土産需要の獲得
-  米州：ブラマーの生産性改善
-  東南アジア：販売価格適正化
-  中国：需要回復を見据えた新製品投入、販売戦略の強化
-  日本：適正な価格改定の継続実施
-  国内外への新規拡販

植物性油脂事業

売上高



営業利益



単位：億円
 - - - - - 通期実績・通期予想
 ■ 上期実績

上期の進捗

日本：適正価格への改定を継続

- ✓ 原料価格の急激な上昇に対する価格改定の遅れ、インドネシアのパーム油禁輸による一時的な物流混乱の影響などにより採算低下。

下期の取組み

- ✓ パーム油など原料価格は落ち着きが見られるが、円安、燃料コスト、インフレに対応した価格対応を継続的に実行。

営業利益 上期/通期
 9
 37 億円

米州：新工場のインフラ整備の遅れによる計画未達

- ✓ アメリカ国内の物流混乱や建設遅延により新工場の稼働が期初計画から遅延。
- ✓ オイルシーズ*が不二製油グループに加入。

*北米でプレミアム植物油（ひまわり油、こめ油）等を扱う販売会社

- ✓ 新工場はQ3以降の早期フル稼働に向けて対応
- ✓ 製造2拠点化のシナジー効果により、生産・配送効率を高め、収益拡大を目指す。

営業利益 上期/通期
 ▲1
 20 億円

東南アジア：原材料価格に応じた販売と付加価値品拡販により伸長

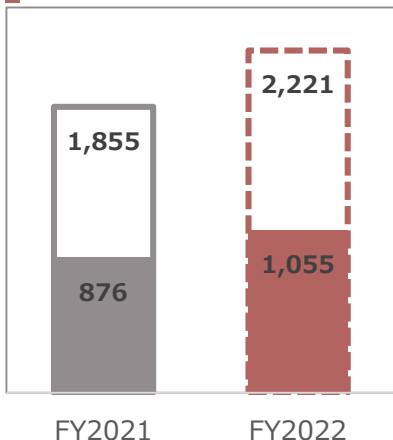
- ✓ マレーシアの子会社で、インドネシアのパーム油禁輸による一過性の需要を獲得。
- ✓ 付加価値品等の販売堅調。

- ✓ 欧米を中心にサステナブル認証油の需要増加に対応し、販売を強化・継続。

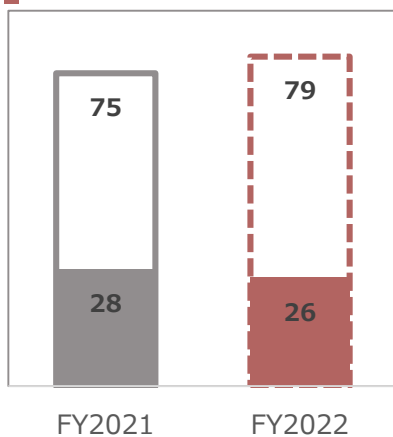
営業利益 上期/通期
 23
 26 億円

業務用チョコレート事業

売上高



営業利益



単位：億円
 - - - - - 通期実績・通期予想
 ■ 上期実績

上期の進捗

日本：土産市場の需要回復を確実に取り込む

- ✓ 販売価格改定を実施。
- ✓ 流通菓子・冷菓向けの販売数量が減少。

下期の取組み

- ✓ 土産市場の需要回復を確実に取り込む。
- ✓ サステナブル原料の取組みを促進。



米州 (北米/ブラジル)：上期は計画通り進捗するも、米国でのインフレ・金利上昇による景況悪化を懸念

ブラマー (北米)

- ✓ 期初に価格改定を実施。
- ✓ 上期の修繕、老朽化対策は想定並みに進捗。
- ✓ カカオ加工設備不良が発生。

ハラルド (ブラジル)

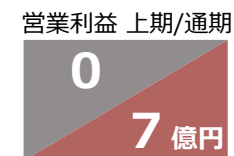
- ✓ 価格改定を実施。流通菓子向けの販売が堅調。

ブラマー (北米)

- ✓ カカオ加工設備の回復を進める。
- ✓ 低糖製品の拡販を進めるも、インフレ等による景況悪化を懸念。

ハラルド (ブラジル)

- ✓ 販売促進を実施。

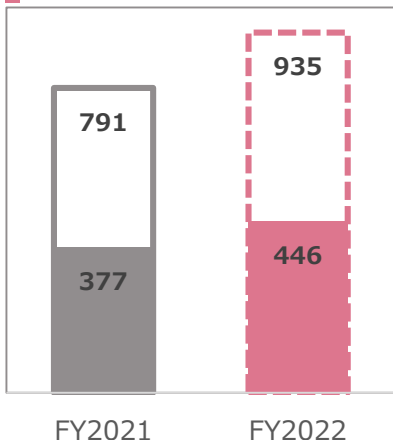


その他 (東南アジア・欧州)：原材料価格の上昇はあるものの販売数量伸長

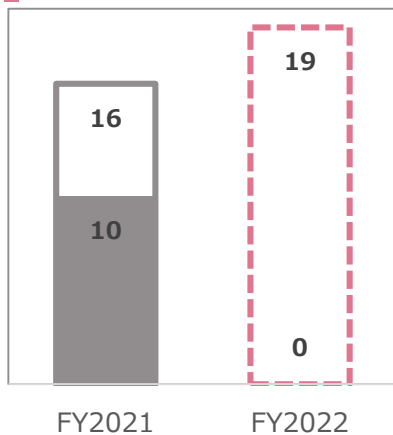
- ✓ インドネシアは、販売数量が前年同期を上回るも、予想は下回る。
- ✓ 豪州は、需要増に対応し堅調な販売も、固定費増により採算低下。
- ✓ 欧州は、生産能力を増強し販売数量が伸長。

- ✓ インドネシアは、コスト競争力を強化。
- ✓ 豪州は、需要に応じた生産体制の強化を推進。
- ✓ 欧州は、拡販による販売数量の増加を見込む。

売上高



営業利益



単位：億円
 - - - - - 通期実績・通期予想
 ■ 前期実績

上期の進捗

日本：コンビニ、外食向けの販売が伸長

- ✓ コンビニ、外食向けの新規提案の採用等により販売が伸長。
- ✓ ホイップクリームの新製法による品質向上も寄与。

新製法の
ホイップクリーム



下期の取組み

- ✓ 消費者ニーズを捉えた提案活動を継続。
- ✓ 販売価格の改定を引き続き実施。



東南アジア：価格改定を継続実施

- ✓ 原料価格高騰に加え、エネルギーコストの上昇により採算低下。継続的な価格改定により、徐々に改善。

- ✓ 引き続き価格改定、コストダウンにより対応を進める。



中国：上期はロックダウンの影響を受けるも、下期での改善を進める

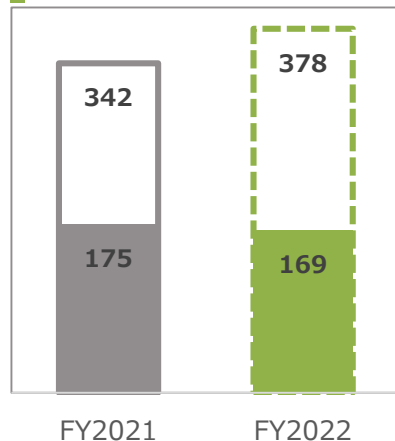
- ✓ ロックダウン以降、中国国内消費が低迷。
- ✓ 原料価格の上昇に対する価格改定の遅れにより採算低下。

- ✓ 販売価格の適正化を継続して実施。
- ✓ コロナ禍からの需要回復を見据え、新製品の投入、販売体制の強化を進める。

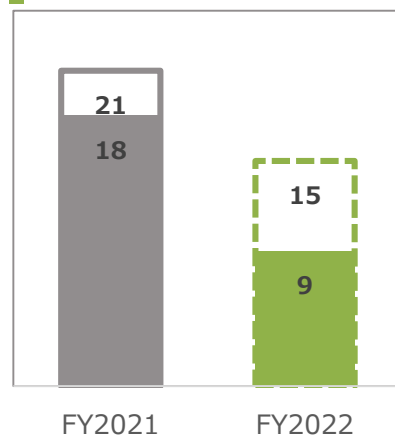


大豆加工素材事業

売上高



営業利益



単位：億円
 - - - - - 通期実績・通期予想
 ■ 上期実績

上期の進捗

日本：粉末状大豆たん白の拡販

- ✓ プロテイン需要の一巡により、粉末状大豆たん白の販売数量が減少。
- ✓ 高付加価値の粒状大豆たん白の販売を開始。
- ✓ 大豆価格上昇に応じた価格改定を実施



プライムテクスチャー製法の大豆ミート

下期の取組み

- ✓ 国内外にむけた粉末状大豆たん白の新規顧客への拡販。
- ✓ 高付加価値製品を拡販。
- ✓ 大豆価格は高水準のため、原料相場の動向に応じた適切な価格対応を継続。

営業利益 上期/通期



欧州：2022年度末の稼働に向けて推進

- ✓ 計画通りに進捗。
- ✓ 下期の本格稼働を目指し、テスト生産開始。

- ✓ 2022年度末の稼働に向けて、認証の取得などを進める。



フジ ブランデンブルク

設備投資 / GOODNOONの取組み


設備投資

成長分野を中心に適正な投資を継続。
2022年度通期では、投資額200億円を予想。

エリア	主な投資項目 (FY2022Q2累計)	投資額
日本	阪南事業所設備更新 等	30 億円
米州	ハラルド(ブラジル) 第2工場建設 等	23 億円
米州	ブラマー(北米) 設備投資 等	10 億円
中国	クリーム工場建設 等	8 億円
FY2022Q2累計 (上記含む)		94 億円



* 建設中


 業務用チョコレート

ハラルド(ブラジル)
第2工場

2023年度上期稼働開始予定



* 建設中

 乳化・発酵素材

中国
クリーム新工場

2023年上期度稼働開始予定

植物性食への取組み GOODNOON



植物性食の普及拡大を目指し積極的に展開進める。

情報発信



- ✓ 2022年7月にプラントベースフード戦略説明会をホテルニューオータニで開催。
- ✓ TV、記事などメディア露出総数は108本。

製品開発



- ✓ プライムテクスチャー製法*の大豆ミートを2022年7月に上市。
- ✓ 2022年度中にプラントベースDashi製品を発売予定。

*「肉のような繊維感と噛み応え」と「口どけ」を両立した大豆ミート

共創



- ✓ 顧客との共創により、植物性食品の市場創出を推進。
- ✓ 2021年3月に設立したPlant Based Lifestyle Labでは会員企業数が45社に拡大。(2022年11月現在) 産官学民連携による多様な取組みを推進。



写真 上から順に
プラントベースフード戦略説明会の試食会場風景
プライムテクスチャー製法の大豆ミート
株式会社日本アクセス「謎唐」
株式会社力の源ホールディングス 一風堂「プラント赤丸」

B/S・C/F・配当方針

B/S

・FY2022 上期：

原料価格上昇により運転資金が増加し
資産及び有利子負債が増加

単位：億円

項目	FY2021 期末	FY2022 上期末	FY2022 修正予想
現預金等	159	184	150
のれん（広義）	499	607	584
資産合計	4,166	4,963	4,800
有利子負債	1,488	1,812	1,550
負債合計	2,271	2,723	2,504
純資産合計	1,895	2,240	2,296

項目	FY2021 期末	FY2022 上期末	FY2022 修正予想
ネットD/Eレシオ*	0.73倍	0.87倍	0.73倍
自己資本比率	44.7%	43.3%	46.0%

* Net有利子負債÷株主資本

C/F

・FY2022 上期：

原料価格の上昇による運転資金の増加等により
営業CFは前期比減少。設備投資は予想並みに
進捗

単位：億円

項目	FY2021 上期	FY2022 上期	FY2022 修正予想
営業CF	31	▲172	200
設備投資額	84	94	200
FCF	▲51	▲228	30
CCC (日)	105	121	103

配当方針

・FY2022予想

配当性向30-40%
従来の方針を維持し、
期初計画から変更なし

FY2022 予想

- ・ **52円/年間**を予想。
(上期26円、下期26円)
- ・ 配当性向 **42.6%**

3

参考資料

上期：売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

(単位：百万円)

売上高	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	FY2022 2Q	26,419	+6,433	40,084	+20,541	16,927	+7,861	1,772	+222	16,156	+4,617	101,360	+39,674
	FY2021 2Q	19,986	+3,111	19,543	+4,704	9,066	+1,821	1,550	+324	11,539	+4,741	61,686	+14,701
	FY2020 2Q	16,875	-	14,839	-	7,245	-	1,226	-	6,798	-	46,985	-
業務用チョコレート	FY2022 2Q	19,366	+1,165	71,919	+12,909	7,739	+2,223	3,043	+380	3,436	+1,220	105,505	+17,897
	FY2021 2Q	18,201	+2,273	59,010	+7,658	5,516	+1,378	2,663	+404	2,216	+787	87,608	+12,499
	FY2020 2Q	15,928	-	51,352	-	4,138	-	2,259	-	1,429	-	75,108	-
乳化・発酵素材	FY2022 2Q	27,325	+2,507	-	-	8,120	+2,723	9,203	+1,755	-	-	44,648	+6,983
	FY2021 2Q	24,818	+1,128	-	-	5,397	+1,094	7,448	+1,781	-	-	37,665	+4,003
	FY2020 2Q	23,690	-	-	-	4,303	-	5,667	-	-	-	33,661	-
大豆加工素材	FY2022 2Q	16,357	▲124	-	-	-	-	525	▲536	-	-	16,883	▲659
	FY2021 2Q	16,481	+528	-	-	-	-	1,061	+181	-	-	17,543	+709
	FY2020 2Q	15,953	-	-	-	-	-	880	-	-	-	16,833	-
売上高計	FY2022 2Q	89,468	+9,980	112,004	+33,451	32,787	+12,806	14,545	+1,821	19,593	+5,838	268,398	+63,895
	FY2021 2Q	79,488	+7,041	78,553	+12,362	19,981	+4,295	12,724	+2,689	13,755	+5,528	204,503	+31,913
	FY2020 2Q	72,447	-	66,191	-	15,686	-	10,035	-	8,227	-	172,589	-

営業利益	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	FY2022 2Q	915	▲952	▲140	▲1,017	2,346	+1,528	▲93	▲70	529	▲30	▲218	▲382	-	-	3,338	▲924
	FY2021 2Q	1,867	▲126	877	+45	818	+267	▲23	▲106	559	+613	164	+144	-	-	4,263	+836
	FY2020 2Q	1,993	-	832	-	551	-	83	-	▲54	-	+20	-	-	-	3,427	-
業務用チョコレート	FY2022 2Q	2,323	▲386	21	+118	164	+16	▲66	▲41	145	+96	56	+32	-	-	2,644	▲166
	FY2021 2Q	2,709	+555	▲97	▲737	148	+87	▲25	+177	49	▲109	24	+1	-	-	2,810	▲25
	FY2020 2Q	2,154	-	640	-	61	-	▲202	-	158	-	23	-	-	-	2,836	-
乳化・発酵素材	FY2022 2Q	787	+59	-	-	▲647	▲310	▲201	▲578	-	-	103	▲83	-	-	42	▲912
	FY2021 2Q	728	+682	-	-	▲337	▲231	377	▲220	-	-	186	+90	-	-	954	+321
	FY2020 2Q	46	-	-	-	▲106	-	597	-	-	-	96	-	-	-	633	-
大豆加工素材	FY2022 2Q	924	▲681	-	-	-	-	152	▲83	▲134	+3	▲6	▲56	-	-	935	▲817
	FY2021 2Q	1,605	▲436	-	-	-	-	235	▲31	▲137	▲112	50	+79	-	-	1,753	▲499
	FY2020 2Q	2,041	-	-	-	-	-	266	-	▲25	-	▲29	-	-	-	2,252	-
連結調整	FY2022 2Q	92	▲41	▲3	▲2	▲7	▲11	10	▲13	▲71	▲103	▲34	+158	-	-	▲14	▲14
	FY2021 2Q	133	+81	▲1	▲6	4	+7	23	+28	32	▲62	▲192	▲49	-	-	-	-
	FY2020 2Q	52	-	5	-	▲3	-	▲5	-	94	-	▲143	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2022 2Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,880	▲11	▲1,880	▲11
	FY2021 2Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,869	▲57	▲1,869	▲57
	FY2020 2Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,811	-	▲1,811	-
営業利益計	FY2022 2Q	5,042	▲2,001	▲124	▲903	1,856	+1,222	▲199	▲787	468	▲35	▲98	▲331	▲1,880	▲11	5,065	▲2,848
	FY2021 2Q	7,043	+754	779	▲701	634	+131	588	▲150	503	+330	233	+266	▲1,869	▲57	7,913	+574
	FY2020 2Q	6,289	-	1,480	-	503	-	738	-	173	-	▲33	-	▲1,811	-	7,338	-

*2021年度から、大豆加工素材事業に含まれていた豆乳及びUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に変更したため、2020年度実績を遡及修正して表示しています。

通期：売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

（単位：百万円）

売上高	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2022 修正予想	51,500	+8,113	82,100	+38,261	30,800	+9,818	3,500	+506	28,700	+4,928	196,600	+61,624
	2022 期初計画	43,700	+313	75,500	+31,661	23,000	+2,018	1,800	▲1,194	24,500	+728	168,500	+33,524
	2021 実績	43,387	-	43,839	-	20,982	-	2,994	-	23,772	-	134,976	-
業務用チョコレート	2022 修正予想	45,200	+5,663	144,400	+22,167	18,500	+5,960	7,300	+908	6,700	+1,866	222,100	+36,560
	2022 期初計画	41,800	+2,263	124,900	+2,667	13,400	+860	5,000	▲1,392	4,900	+66	190,000	+4,460
	2021 実績	39,537	-	122,233	-	12,540	-	6,392	-	4,834	-	185,540	-
乳化・発酵素材	2022 修正予想	57,700	+6,408	-	-	16,900	+4,919	18,900	+3,028	-	-	93,500	+14,354
	2022 期初計画	51,400	+108	-	-	11,700	▲281	17,500	+1,628	-	-	80,600	+1,454
	2021 実績	51,292	-	-	-	11,981	-	15,872	-	-	-	79,146	-
大豆加工素材	2022 修正予想	36,600	+4,285	-	-	-	-	1,200	▲652	-	-	37,800	+3,633
	2022 期初計画	39,600	+7,285	-	-	-	-	1,100	▲752	200	+200	40,900	+6,733
	2021 実績	32,315	-	-	-	-	-	1,852	-	-	-	34,167	-
売上高計	2022 修正予想	191,000	+24,467	226,500	+60,427	66,200	+20,696	30,900	+3,789	35,400	+6,793	550,000	+116,169
	2022 期初計画	176,500	+9,967	200,400	+34,327	48,100	+2,596	25,400	▲1,711	29,600	+993	480,000	+46,169
	2021 実績	166,533	-	166,073	-	45,504	-	27,111	-	28,607	-	433,831	-

営業利益	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2022 修正予想	3,699	▲107	1,970	+1,637	2,647	+527	▲147	▲158	1,090	▲146	28	+135	▲115	▲115	9,171	+1,770
	2022 期初計画	3,448	▲358	1,457	+1,124	1,017	▲1,103	▲150	▲161	957	▲279	28	+135	-	-	6,758	▲643
	2021 実績	3,806	-	333	-	2,120	-	11	-	1,236	-	▲107	-	-	-	7,401	-
業務用チョコレート	2022 修正予想	6,035	▲290	670	+426	1,049	+398	▲157	▲292	283	+109	29	+12	-	-	7,909	+361
	2022 期初計画	6,024	▲301	1,864	+1,620	1,009	+358	▲273	▲408	120	▲54	29	+12	-	-	8,772	+1,224
	2021 実績	6,325	-	244	-	651	-	135	-	174	-	17	-	-	-	7,548	-
乳化・発酵素材	2022 修正予想	1,661	▲133	-	-	▲4	+860	254	▲276	-	-	34	▲123	-	-	1,944	+327
	2022 期初計画	1,502	▲292	-	-	12	+876	1,219	+689	-	-	34	▲123	-	-	2,767	+1,150
	2021 実績	1,794	-	-	-	▲864	-	530	-	-	-	157	-	-	-	1,617	-
大豆加工素材	2022 修正予想	1,608	▲441	-	-	-	-	343	+26	▲450	▲154	39	▲39	-	-	1,540	▲609
	2022 期初計画	2,584	+535	-	-	-	-	474	+157	▲600	▲304	39	▲39	-	-	2,496	+347
	2021 実績	2,049	-	-	-	-	-	317	-	▲296	-	78	-	-	-	2,149	-
連結調整	2022 修正予想	-	▲150	-	▲7	-	+5	-	▲3	-	+13	-	+163	-	-	-	+20
	2022 期初計画	-	▲150	-	▲7	-	+5	-	▲3	-	+13	-	+163	-	-	-	+20
	2021 実績	150	-	7	-	▲5	-	3	-	▲13	-	▲163	-	-	-	▲20	-
グループ管理費用	2022 修正予想	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,065	▲377	▲4,065	▲377
	2022 期初計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,293	▲605	▲4,293	▲605
	2021 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,688	-	▲3,688	-
営業利益計	2022 修正予想	13,002	▲1,125	2,640	+2,056	3,692	+1,790	293	▲706	923	▲178	130	+148	▲4,180	▲492	16,500	+1,492
	2022 期初計画	13,557	▲570	3,321	+2,737	2,038	+136	1,270	+271	476	▲625	130	+148	▲4,293	▲605	16,500	+1,492
	2021 実績	14,127	-	584	-	1,902	-	999	-	1,101	-	▲18	-	▲3,688	-	15,008	-

(単位：億円)

売上高	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
合計	617	1,014	+397	1,350	1,685	1,966	+616	+281
日本	200	264	+64	434	437	515	+81	+78
米州	195	401	+205	438	755	821	+383	+66
東南アジア	91	169	+79	210	230	308	+98	+78
中国	16	18	+2	30	18	35	+5	+17
欧州	115	162	+46	238	245	287	+49	+42

営業利益	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
合計	43	33	▲9	74	68	92	+18	+24
日本	19	9	▲10	38	34	37	▲1	+3
米州	9	▲1	▲10	3	15	20	+16	+5
東南アジア	8	23	+15	21	10	26	+5	+16
中国	▲0	▲1	▲1	0	▲2	▲1	▲2	+0
欧州	6	5	▲0	12	10	11	▲1	+1
連結調整等	2	▲2	▲4	▲1	0	▲1	+0	▲1



(単位：億円)

売上高	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
合計	876	1,055	+179	1,855	1,900	2,221	+366	+321
日本	182	194	+12	395	418	452	+57	+34
米州	590	719	+129	1,222	1,249	1,444	+222	+195
東南アジア	55	77	+22	125	134	185	+60	+51
中国	27	30	+4	64	50	73	+9	+23
欧州	22	34	+12	48	49	67	+19	+18

営業利益	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
合計	28	26	▲2	75	88	79	+4	▲9
日本	27	23	▲4	63	60	60	▲3	+0
米州	▲1	0	+1	2	19	7	+4	▲12
東南アジア	1	2	+0	7	10	10	+4	+0
中国	▲0	▲1	▲0	1	▲3	▲2	▲3	+1
欧州	0	1	+1	2	1	3	+1	+2
連結調整等	0	1	+0	0	0	0	+0	-



(単位：億円)

売上高	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
全体	377	446	+70	791	806	935	+144	+129
日本	248	273	+25	513	514	577	+64	+63
東南アジア	54	81	+27	120	117	169	+49	+52
中国	74	92	+18	159	175	189	+30	+14

営業利益	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
営業利益	10	0	▲9	16	28	19	+3	▲8
日本	7	8	+1	18	15	17	▲1	+2
東南アジア	▲3	▲6	▲3	▲9	0	▲0	+9	▲0
中国	4	▲2	▲6	5	12	3	▲3	▲10
連結調整等	2	1	▲1	2	0	0	▲1	-



(単位：億円)

売上高	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
合計	175	169	▲7	342	409	378	+36	▲31
日本	165	164	▲1	323	396	366	+43	▲30
中国	11	5	▲5	19	11	12	▲7	+1
欧州	-	-	-	-	2	-	-	▲2

営業利益	FY2021 上期実績	FY2022 上期実績	前年同期比	FY2021 実績	FY2022 期初計画	FY2022 修正予想	前年度実績 vs 修正予想	期初計画 vs 修正予想
営業利益	18	9	▲8	21	25	15	▲6	▲10
日本	16	9	▲7	20	26	16	▲4	▲10
中国	2	2	▲1	3	5	3	+0	▲1
欧州	▲1	▲1	+0	▲3	▲6	▲5	▲2	+2
連結調整等	1	▲0	▲1	1	0	0	▲0	-

不二製油グループ本社株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。